

ニギノミコトゆかりの地を紹介



出逢いの地と伝わる「愛宕山」

市街地南端にある愛宕山は、かつて守吉川と呼ばれ、ニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。



愛宕山

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

愛宕神社

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

春日神社

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

今山八幡宮

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

延岡城跡 城山公園

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

縣やな

山頂にニギノミコトとコノハナサクヤヒメの霊が祀られていた。高千穂に降りたニギノミコトは、川をくぐって岩の隙間までくと、鮮やかな花びらに包まれた美しい山に落ちた。「山の神か」と思われ、神は「山の神はコノハナサクヤヒメの霊で、名はコノハナサクヤヒメ」と告げる。一月で死んでしまったニギノミコトは、冥府を渡りてコノハナサクヤヒメと再会し、二人はめでたく結婚した。コノハナサクヤヒメとの再会の地をまたたいたニギノミコトから祀られるようになった山に由来する。

4/5 記紀編さん1300年「神話の源流」延岡市編を発行 県

記紀編さん1300年記念事業として、県は県内14市町村と連携したパンフレット「神話の源流」はじまりの物語」の第4弾「延岡市編」を作成した。県庁や市町村役場などで配布するほか、インターネットで「神話のふるさと宮崎／パンフレットダウンロード」からも入手できる。

「運命の出会いを辿る」北川町の可愛(えの)山陵―北川陵墓参考地―は、岩のように永遠の命を持つという意味のあるイワナガヒメを断つてコノハナサクヤヒメを妻に選んだため、寿命を持つことになったニギノミコトが、崩御後に葬り奉ら

れたとされる場所。西南の役で薩摩軍が同所の麓に宿陣したのは、御陵墓が守ってくれると信じたからだといわれている。

また、コノハナサクヤヒメが身ごもった3人の皇子のうち、ホオリノミコトが産湯をつかったことが名前の由来といわれる祝子川や、その上流にあり、ホオリノミコトの岩屋といわれる神さん山も掲載。熊襲(くまそ)討伐で訪れたヤマトタケルが名付けたという行藤山の伝説もつづら

れている。

ふんだんな写真と共に、観光・レジャー関連、神楽の情報、特産品なども紹介。歌人作家の東直子氏による神話エッセーも読み応えがある。

同パンフレットは、市町村と協力して神話をテーマにした新たな観光プランをつくり、本県の魅力を発信しようという企画。これまでに日向市・都農町編、高千穂町・日之影町編、諸塚村・椎葉村編など6編が発行されている。